

第2章

第1期計画の主な取り組み状況

1 第1期計画の実績と評価

本計画の策定にあたり、第1期計画の実績・評価として4つの基本目標ごとに主な取り組みを振り返り、第2期計画に反映すべき主な課題を整理しました。

基本目標1 地域における子育て支援の充実

【主な施策1】 地域における子育て支援サービスの充実

(第1期計画の内容)

すべての子育て家庭が、不安や負担を抱え込むことなく、ゆとりをもって子育てができるように、さまざまな地域資源の活用を図りながら、きめ細やかな子育て支援サービスを提供します。また、身近なところで子育てについて相談できるよう、さまざまな場所での相談や情報提供を行い、保護者の育児負担の軽減を図ります。

(第1期計画の実績)

事業名	単位	H27	H28	H29	H30	H31 (R元)
利用者支援事業						
子育て支援センター相談件数	件	227	268	212	177	115
地域子育て支援拠点事業						
自由開放	組	1,740	1,897	2,341	2,429	2,098
遊びのひろば	組	305	292	352	385	308
ミニ講座	組	106	84	124	115	102
養育支援訪問事業	件	8	7	7	6	9
一時預かり事業						
託児無料券交付事業	件 人	— —	— —	4 4	24 24	27 27
個人託児	件 人	12 12	29 31	18 25	26 26	38 39
集団託児	件 人	69 463	43 249	46 356	44 225	52 264
ファミリー・サポート・センター*						
個人	件 人	— —	— —	4 7	8 13	6 11
集団	件 人	— —	— —	2 11	0 0	4 10

*北見市のファミリー・サポート・センターに登録している子育てサポートメロンキッズ会員が、町内で実施した数（子育てサポートメロンキッズ：町の託児ボランティア）

1. 利用者支援事業 (子育て支援センター・こども園)

《第1期の評価》

(子育て支援センター)

- ・子どもの発達や子育ての悩みなど、日々の来所の中で遊ばせながら相談する保護者が多く、職員だけでなく保護者同士でもお互いに経験を伝え合うなど、相談しやすい環境づくりに努めています。
- ・子どもの発達の悩みでは、発達支援事業を利用し専門職に診てもらうことにより、保護者に適切な助言をすることができています。

(こども園)

- ・園生活が進む中で、保護者との信頼関係の深まりが見られ、気軽に相談できる状況が生まれ、職員だけでなく保護者同士でもお互いに経験を伝え合うなど、相談することができています。

また、園での取り組みの一つである「子育てトーク」では、保健師の助言などを受けながら、関係機関とのつながりも深まり、子どもの発達の悩みでは、発達支援事業の実施により、個々の子どもに対して適切な対応を行うことができています。

《第1期を振り返っての課題》

(子育て支援センター)

- ・保護者によっては、子どもをとりまく生活環境の中で、悩んだり不安に思ったり、様々な心労を抱えています。子どもと向き合い子育てを前向きに楽しめるように、きめ細やかな配慮をすることが課題です。

(こども園)

- ・保護者の中には、相談や困り感があっても、自主的に相談や支援を受けられずにいる状況も見られるため、利用のしやすさや案内などの工夫が必要です。

2. 地域子育て支援拠点事業 (子育て支援センター)

《第1期の評価》

- ・未満児(0～2歳児)のこども園への就園率が年々高くなり、特に2歳児については70%以上が就園している状況となっているため、2歳児のひろばについては、平成30年度から1ヶ月に1回程度、こども園の2歳児と交流し、集団遊びを一緒に楽しみ入園に向けての準備期間となっています。

《第1期を振り返っての課題》

- ・こども園の就園率が今後も増加傾向にあるため、行事の内容など検討していく必要があります。

3. 養育支援家庭訪問事業（子ども未来課）

《第1期の評価》

- ・養育者支援保健・医療連携システムによる訪問件数は横ばいですが、近年、若年出産、家族のサポートが難しいケース等、問題が多様化している中で、個々の妊産婦に丁寧に対応しています。

《第1期を振り返っての課題》

- ・子育ての不安や孤立感を持つ保護者が社会的に増加傾向にあることから、今後も個々のケースの状況を把握し、関係機関と連携をとりながら、安心して子育てできるように支援していきます。

4. 一時預かり事業（子育て支援センター・子ども未来課）

《第1期の評価》

- ・個人託児では、平成29年度より託児無料券交付事業を開始後、利用数が増加しており、保護者が安心して気軽に利用することができています。
- ・子育てサポートメロンキッズの託児については、チラシを配布することで広く周知することができています。
- ・託児を依頼する家庭が固定化している傾向もありますが、未利用の保護者にもいざという時に利用できるという安心感につながっています。

《第1期を振り返っての課題》

- ・子育てサポートメロンキッズ会員の高齢化や、就業などにより活動の継続が難しくなる方が多く、今後は人材確保に努める必要があります。

5. ファミリー・サポート・センター事業（子育て支援センター）

《第1期の評価》

- ・本町では実施していませんが、北見市のファミリー・サポート・センターに登録している会員が、町内で実施しており、休日の託児、保育時間外の送迎など、保護者の家庭事情に合わせて託児を実施することができています。

《第1期を振り返っての課題》

- ・今後も必要とする保護者へ周知していきます。

6. 子育て支援情報（子ども未来課）

《第1期の評価》

- ・新生児訪問時における「訓子府町子育て支援情報」の配付、子育て支援センターの紹介を行うとともに、リーフレットや広報にて情報発信に努めました。

《第1期を振り返っての課題》

- ・適切な時期に、必要な情報を伝えていくために、周知方法の工夫に努めていきます。
- ・子育て中の保護者が安心して子育てができるように、身近で分かりやすい子育て支援情報の配信方法について検討していきます。



【主な施策2】 妊娠・出産期から切れ目のない支援

(第1期計画の内容)

妊娠・出産期から乳幼児期に至るまで、安全に安心して出産・育児が行えるよう、切れ目のない健康管理や発育・発達への支援体制の構築を図ります。

(第1期計画の実績)

事業名	単位	H27	H28	H29	H30	H31 (R元)
妊婦一般健康診査事業	人	28	33	34	27	25
産婦健康診査事業	件	—	—	—	—	48
母親教室	人	7	10	6	6	5
両親教室	組	2	5	6	4	4
乳児家庭全戸訪問	人	26	31	35	25	24
乳幼児健康診査						
3・4か月児健康診査	%	100	100	100	100	100
9・10か月児健康診査	%	94	96.7	96.4	100	95.7
1歳6か月児健診	%	87	80.6	86.8	86.8	87.1
2歳児健康相談	%	79.5	96.5	93.1	78.4	87.5
3歳児健康診査	%	71	71	91.7	91.7	91.9
年中児健康相談	個別相談数 対象数	10 (49)	12 (44)	16 (50)	14 (27)	16 (32)
子ども予防接種事業 (子どもインフルエンザ)	1歳～小6(%) 中学生(%)	42.6 37.7	36.2 30.9	33.7 23.4	46.9 27.4	46.7 26.8
フッ素塗布数(医療機関分)	人	97	65	74	60	53
未熟児養育医療給付	件	2	2	0	0	0
特定不妊治療費助成事業	人 件	3 4	1 1	3 3	6 9	4 6
不育症治療費助成事業	件	—	—	0	0	0
産後ケア事業*	人 件	— —	— —	— —	— —	6 10
新生児聴覚検査事業	件	—	—	—	—	20

*助産院や自宅において、産婦の体調・授乳・育児の相談等を受けられる事業

1. 妊婦一般健康診査事業 (福祉保健課)

《第1期の評価》

- ・妊娠・出産にかかる経済的負担を軽減し、妊婦及び胎児の健康の保持・増進を図りました。

《第1期を振り返っての課題》

- ・引き続き、妊婦健康診査の受診券を交付することで、妊娠・出産に係る経済的負担を軽減し、健診受診により妊婦及び胎児の健康保持・増進を図ります。

2. 産婦健康診査事業 (福祉保健課)

《第1期の評価》

- ・平成31年度より、産婦健康診査受診券2回分(2週間・1か月)を交付しています。産婦の身体的な回復や授乳及び精神状況を確認し、支援が必要な産婦を早期に把握し、必要な支援を行いました。

《第1期を振り返っての課題》

- ・産婦健診の費用を助成することで、経済的な負担の軽減、産後の支援が必要な者の把握につながるよう、医療機関との連携を図ります。

3. 母親教室・両親教室 (福祉保健課)

《第1期の評価》

- ・両親教室への父親の参加については、少しずつ増えてきています。育児の知識や技術を学び、夫婦で子育てをする大切さを知り、協力して育児ができるよう支援に努めました。

《第1期を振り返っての課題》

- ・初産婦や出生数の減少により、母親教室の参加者数が減少してきています。母親、父親同士の交流を目的とした母親教室、両親教室が、人数不足で開催できないこともあり、経産婦の方の参加が増えるような内容を検討する必要があります。

4. 乳児家庭全戸訪問事業 (子ども未来課)

《第1期の評価》

- ・出生したすべての子どもと保護者に対して保健師による家庭訪問を実施し、退院後の母子の状況について確認し必要に応じて支援を行いました。母親の里帰りなどで訪問時期が1か月以降になることもありますが、おおむね2か月以内に全員訪問しています。

《第1期を振り返っての課題》

- ・ 出産直後の保護者は、育児不安が増大しやすい傾向にあるため、早期につながりを持つことで安心して育児ができる体制づくりが重要です。

5. 乳幼児健康診査・健康相談（子ども未来課）

《第1期の評価》

- ・ 健診未受診者については、健康相談等の別日に実施し、全員と面談できました。そのうち経過観察者については、健康相談、こども園等で後日再確認する場を設けています。専門的なアドバイスが必要な場合は、発達支援事業を利用して育児不安の軽減に努めました。また、平成27年度より年中児健康相談（4歳児）を開始し、こども園の集団の様子を観察後、支援を要するお子さんに対して個別の発達検査を行い、より丁寧な支援につながっています。

《第1期を振り返っての課題》

- ・ 健診未受診者や経過観察者については、今後もきめ細かな対応を行う必要があります。関係機関と連携し、必要な支援につなげていきます。

6. 子ども予防接種事業（子ども未来課）

《第1期の評価》

- ・ 新生児訪問時に予防接種の個別ファイルを配布し説明してきました。健康相談、健康診査の節目には予防接種の進行状況について確認し、適切な時期に接種できるよう助言を行いました。また、平成28年度より任意予防接種費の一部助成も実施しています。

《第1期を振り返っての課題》

- ・ 感染症を予防するため、今後も適切に接種できるように正しい情報を提供するとともに、接種しやすい体制づくりを目指す必要があります。

7. フッ素塗布・フッ化物洗口事業 (子ども未来課)

《第1期の評価》

- ・フッ素塗布のみで歯科医院を受診する数は減少傾向にありますが、定期的に歯科検診を受け、治療の一環としてフッ素塗布を行っている子どもが多くなっています。また、フッ化物洗口事業については、こども園、小学校にて安全に配慮し実施しています。

《第1期を振り返っての課題》

- ・乳幼児健診を通じてむし歯予防の重要性について意識が高くなってきていますが、むし歯の数は個人差が大きいので今後も個別指導に努めていきます。

8. 未熟児養育医療の給付 (福祉保健課)

《第1期の評価》

- ・対象者には全員給付することができています。

《第1期を振り返っての課題》

- ・未熟児の出生があった場合は、引き続き医療機関との連携を図り、給付事務を進めていきます。

9. 特定不妊治療費助成事業 (福祉保健課)

《第1期の評価》

- ・費用の助成があることで、治療に踏み切れたという方々も多く、妊娠を希望する方への経済的な負担軽減ができました。

《第1期を振り返っての課題》

- ・年度により申請数の増減はありますが、費用助成により治療につながる方も増えてきています。より多くの方に情報が届くよう、周知方法の検討が必要です。

10. 不育症治療費助成事業

《第1期の評価》

- ・治療されている方については、北海道の助成事業につながれば、町の助成事業につながる流れとなっていますが、北海道の実績がない状況です。

《第1期を振り返っての課題》

- ・引き続き対象者への周知を行い、必要な方への周知に努めます。

1 1. 産後ケア事業 (福祉保健課)

《第1期の評価》

- ・産後の心理的ケア、育児の支援を目的に、平成31年度より、北見市内の開業助産院、母乳相談室の助産師による乳房ケア、育児相談を行い、安心して子育てできる環境を整備しました。

《第1期を振り返っての課題》

- ・引き続き、対象者への周知を行い、必要な方が利用できるよう相談対応を行います。

1 2. 新生児聴覚検査事業 (子ども未来課)

《第1期の評価》

- ・新生児の聴覚に異常の有無を早期に発見することを目的に、平成31年度より、産科医療機関で実施される聴覚検査費の助成を行いました。

《第1期を振り返っての課題》

- ・引き続き、適切な時期に検査を受けることができるよう対象者への周知を行います。



【主な施策3】子どもの心身の健やかな成長を願う家庭や地域の教育力の向上

(第1期計画の内容)

健全な発達を支援し、身近な地域で安心して生活できるよう、保健・医療・福祉・教育などの各種施策の連携により、一貫性、継続性のある支援を行います。

(第1期計画の実績)

事業名	単位	H27	H28	H29	H30	H31 (R元)
はぐくみ講座						
講演会	回	1	3	1	1	1
ワークショップ	回	—	—	1	1	—
親と子のための教育相談 (教育専門員学校訪問数)	回	13	14	12	12	12

1. はぐくみ講座 (社会教育課)

《第1期の評価》

- ・町PTA連合会や子育て支援センター等と連携して研修会を開催するなど、子育てに関する共通の問題や課題解決のための機会を設けることができました。

《第1期を振り返っての課題》

- ・年度によって参加者が増減することもあり、今後も実施時期・時間、事業PR等を含めた周知方法も工夫する必要があります。こども園育成会で行う研修や、わくわく地域づくり活動支援事業補助金を活用しての講演会などでも子育てに関する講演や講座などが開催されているため、町としてどのようなことを伝えていくのか、子育て世代の方たちのニーズを捉えながら実施する必要があります。

2. 親と子のための教育相談 (社会教育課)

《第1期の評価》

- ・児童・生徒・保護者からの相談に加え、町内各学校を訪問することにより、よりきめ細やかな相談業務を行うことができました。また、「訓子府町子育て支援情報」に相談業務と相談員（教育専門員）の紹介を掲載し、幅広い年代の教育相談に対応できました。

《第1期を振り返っての課題》

- ・今後も相談事業の推進を図るため、事業の趣旨や目的、相談員の紹介、最新の教育情報等の提供を行うなど、よりきめ細やかな取り組みが必要です。

基本目標2 子どもの心身の健やかな成長にとっての良質な教育・保育の提供

【主な施策1】 保育サービスの充実

(第1期計画の内容)

教育・保育サービスについては、利用者の多様なニーズに応えることができるよう教育・保育の充実とともに、延長保育など様々なニーズに対応した保育の充実を図ります。

(第1期計画の実績)

事業名	単位	H27	H28	H29	H30	H31 (R元)
こども園入園児数	人	171	196	172	174	159
延長保育	人	17	3	6	2	0
	回	206	43	147	60	0
預かり保育						
平日	人	1,564	4,869	4,799	4,005	4,396
土曜日・長期休業	人	235	261	254	212	231

1. 教育・保育事業 (こども園)

《第1期の評価》

- ・認定こども園では、はだし保育やリズム運動、自然との触れ合い、異年齢との交流などにより、豊かな人間性、社会性を大切にしてきました。また、保護者の就労形態の多様化により、未満児の入園率が増加傾向にあることから、保育教諭などの安定した保育体制をつくとともに、研修の機会の充実を図り、教育・保育の質の向上を目指し、家庭とこども園が連携し、子どもたちにとって心地よい教育・保育の場となるように日常の生活や行事を工夫してきました。

《第1期を振り返っての課題》

- ・低年齢の園児や各年齢ごとの教育・保育体制を確保し、認定こども園の「教育・保育」の中心となる「0～5歳児のつながりのある教育・保育の実現」に向け、地域や保護者との連携、保育教諭の研修機会の充実を図ります。

2. 延長保育事業 (こども園)

《第1期の評価》

- ・長時間保育園児の対応については、保護者、園児の負担に寄り添いながら、園で過ごす子ども達の安心・安定を図ることができました。今後も適切で安全な職員配置となるよう、利用園児の状況把握、引継ぎなどを行うことが重要です。

《第1期を振り返っての課題》

- ・保護者の就労形態や利用の状況、希望に合わせて、事前の相談体制を整えながら、丁寧な寄り添いと説明を行い、保護者の安心感となる体制を整え、利用のしやすさにつなげていく必要があります。

3. 預かり保育事業 (こども園)

《第1期の評価》

- ・1号認定園児の預かり保育(午後)利用が、100%の状況となっています。教育・保育を受ける園児の状況に配慮しながら、教育課程に係わる教育時間(13時まで)と預かり保育時間(午後)のつながりを大切に進めています。午睡や午後のおやつ等ゆったりと穏やかな午後の時間として設定し、異年齢のかかわりも楽しむことのできる時間とすることができました。

《第1期を振り返っての課題》

- ・様々な年齢の子どもが、人との触れ合いを心地よく感じながら、安心して安全に過ごすことができる午後のプログラムの工夫を積極的に行い、年齢ごとの育ち、学びに適した体験からの楽しさを味わえる時間を大切にしていきます。

【主な施策2】 認定こども園の推進

(第1期計画の内容)

認定こども園は、就学前の教育・保育を一体として捉え、一貫して提供する新たな枠組みとして、幼稚園機能と保育所機能を合わせ持つ、地域子育て支援の中核となる施設です。本町では、平成28年度に認定こども園が開園し、0歳から5歳までの一貫した教育・保育の展開により、小学校就学を見据えた子どもたちの健やかな発達・成長を促し、保護者が安心して預けることができる施設を目指します。

(第1期計画の実績)

事業名	単位	H27	H28	H29	H30	H31 (R元)
園開放(年3回)*1	組	—	45	28	27	28
	人	—	97	56	54	57
わくわく子育て懇談会 (年1回)*2	人	—	24	48	56	28

*1：未就園の親子を対象に、こども園での遊びや保育教諭との触れ合いを提供する。

*2：こども園を取り巻く地域住民の出会いの場。様々な年齢の方を対象にした子育てに関する情報交流や学びを提供する。

1. 認定こども園 (こども園)

《第1期の評価》

- こども園を地域に開放することで、交流の場となることを目的として、「園開放」「地域の子育て支援事業～わくわく子育て懇談会」等を開催し、子育て世代をはじめ地域の方々が、町の子どもたちやこども園への関心を高め、地域への情報発信に努めました。

《第1期を振り返っての課題》

- こども園の開園から年月を重ねることや、取り組みを継続する中で、マンネリ化や丁寧さ、配慮等の不足などが起こらないよう工夫していくことが重要と考えます。また今後も、地域とのつながりを充実させながら、子育ての楽しさや安心感をこども園から発信し続ける役割を大切にしていきます。

【主な施策3】 幼児期の教育と就学期の教育の連携強化

(第1期計画の内容)

こども園・小学校・中学校の教職員が、教育・保育に対する相互理解を深め、小学校や中学校への円滑な接続を目指し共通の見通しがもてるよう、連携の強化を図っていきます。

(第1期計画の実績)

事業名	単位	H27	H28	H29	H30	H31 (R元)
教育支援委員会 *	回	1	1	1	1	1

*教育上、特別な取扱いを要する児童及び生徒の適切な就学を図るため、教育委員会に設置している機関。

1. 教育支援委員会 (管理課)

《第1期の評価》

- ・支援を必要とする児童の小学校や中学校への就学において、円滑な接続のために教職員の連携強化を図りました。

《第1期を振り返っての課題》

- ・引き続きこども園、小学校、中学校への引継ぎを丁寧に行うことで、より円滑な接続につなげていきます。

基本目標3 職業生活と家庭生活との両立の推進

【主な施策1】職業生活と家庭生活との両立（ワークライフバランス）を図るための環境の整備

（第1期計画の内容）

仕事と子育てを両立する上で、保育サービスの充実に加え、育児休業が取得しやすい職場環境、妊娠中や育児期間中の勤務軽減等、事業所における子育て支援が重要となります。働き方の見直しや子育てしやすい職場環境づくりができるよう、事業所等への啓発を図ります。

（第1期計画の実績）

事業名	単位	H27	H28	H29	H30	H31 (R元)
子育て応援保育	人	—	7	3	0	1

1. 子育て応援保育（子ども未来課）

《第1期の評価》

- ・平成28年度より、仕事と子育ての両立を支援する目的で、子育て応援保育を実施しています。町内の事業所、町民の方に広報などで事業の内容をお知らせし、活用を呼びかけました。
- ・保護者の勤務地がある訓子府町の認定こども園に子どもを預けることができるので、急な発熱などの体調不良時や、仕事終了後、すぐにお迎えに行くことができるようになり、保護者の安心につながっています。

《第1期を振り返っての課題》

- ・里帰り出産を理由に一時的に利用する方の割合が高く、子育て支援センターやこども園等と連携し、地域におけるニーズの把握に努めながら、制度の周知を行います。
- ・町内の事業所に町外から働きに来ている方の利用についても、制度の積極的な利用が図られるよう、町内の各事業所に対する制度の周知を行います。

【主な施策2】 子育て中の家庭への経済支援

(第1期計画の内容)

子どもを産み育てることの負担感は様々ですが、妊娠・出産から子育てに必要な費用は教育・保育・医療等多分野にわたっており、子育てに関する経済支援はニーズが高い分野であります。多子世帯については保育料の減額制度を実施していますが、今後も子育て家庭の経済的負担の軽減が図られるよう各種支援を検討し、保護者ならびに子どもの生活支援を行います。

(第1期計画の実績)

事業名	単位	H27	H28	H29	H30	H31 (R元)
多子世帯保育料応援補助金	千円	9,267	13,933	16,176	16,597	7,645
紙おむつ処理費用助成事業	人 (枚)	—	—	—	90 (13,250)	23 (5,260)
就学援助事業	人 千円	小34・中24 5,437	小39・中16 5,012	小39・中18 4,785	小34・中17 4,571	小29・中29 5,913
高校生定期運賃補助事業	人 千円	96 9,721	98 9,886	91 9,300	103 10,762	105 11,166
奨学金制度	人 千円	12 3,960	17 5,760	13 4,320	16 5,400	15 5,220
子ども医療費助成						
就学前・小学生入院	件	4,985	5,185	4,543	4,130	4,372
小学生外来	件	1,559	1,808	1,979	2,405	2,640
中学生外来・入院	件	202	532	701	788	795

《第1期の評価》

- ・子育てにかかる経済的負担を軽減するため、関係各課により年齢世代ごとに適切な援助を行いました。

《第1期を振り返っての課題》

- ・引き続き、各課で助成等の事業を実施し、子育てにかかる経済的負担の軽減に努めます。

基本目標4 すべての子どもの育ちを支える環境の整備

【主な施策1】 子育て支援ネットワークづくりの推進

(第1期計画の内容)

要保護児童や支援が必要な児童、妊婦、養育不安を抱える保護者への適切な支援を図るため、地域の関係機関との連携やネットワーク構築を推進します。

(第1期計画の評価)

児童虐待の未然防止や様々な家庭における問題の解決に向け、子育て支援ネットワークづくりの推進や各機関による子育て相談の充実、育児ストレスなど子育てに対して不安や孤立感を抱える家庭を訪問し養育支援を行うなど、関係機関と協力し合い、丁寧な支援に努めました。

【主な施策2】 子どもの発達支援事業の充実

(第1期計画の内容)

早期に必要な指導を受け、将来的な負担を軽減するため、障がいの有無に関わらず、発達の遅れなどが気になる子どもに対し、早期発見、早期療育につながるよう体制の充実を図ります。

(第1期計画の実績)

事業名	単位	H27	H28	H29	H30	H31 (R元)
発達支援事業						
未就学開催回数	回	6	6	6	6	6
未就学児相談人数	人	24	24	24	25	22
小中学校開催回数	回	1	3	3	3	5
小中学生相談人数	人	1	20	9	12	21
障害児通所給付費	人	8	6	5	6	10
関係機関との連携強化	回	12	12	12	12	12
特別支援を語る会						

1. 発達支援事業 (子ども未来課)

《第1期の評価》

美幌療育病院、北見市子ども総合支援センター「きらり」と連携し発達支援事業を実施しています。発達に遅れのある子どもの保護者やこども園、小中学校と状況を共有し必要な手立てを考えることで子どもの理解に努めました。

《第1期を振り返っての課題》

- ・未就学児から小中学生まで発達支援事業を実施することで継続的に子どもの様子を確認し、子どもとその保護者への支援につなげています。
- ・発達支援を要する子どもに関わる支援機関及び関係職員に対しては、引き続き、資質の向上を図っていきます。

2. 障害児通所給付費の支給 (福祉保健課・子ども未来課)

《第1期の評価》

個別、小集団の支援が必要な子どもに対して、北見市子ども総合支援センター「きらり」への通所給付費の支給を行い、利用負担の軽減に努めました。

《第1期を振り返っての課題》

引き続き、事業を実施し、対象者への周知に努めていきます。

3. 関係機関との連携強化 (子ども未来課)

《第1期の評価》

- ・発達支援事業、年中児健康相談等を通じてこども園から小学校への切れ目のない支援を意識して子どもに関わる関係機関と情報を共有し連携して支援を実施することに努めました。
- ・「子育て・特別支援を語る会(有志)」で月1回、町の特別支援教育に関わる職種が集まり情報交換を行い、子どもたちの状況について共有し、地域の子育て、教育について学習を深めることができました。

《第1期を振り返っての課題》

発達障がい等についての保護者の捉え方には個人差があるので、情報提供や子どもとその保護者への支援についてきめ細かい対応が必要です。引き続き、関係職種が連携し、町の子育て、教育について情報共有していきます。

【主な施策3】 要保護児童への支援

(第1期計画の内容)

児童虐待は、子どもの心身の発達や人格の形成に重大な影響を与えます。育児不安や児童虐待の早期発見に努め、訪問等による支援や適切な対応ができるよう関係機関と連携し、相談体制の充実を図ります。

(第1期計画の実績)

事業名	単位	H27	H28	H29	H30	H31 (R元)
要保護児童対策地域協議会 *						
全体会議	1	1	1	1	1	1
ケース会議	1	1	1	1	1	6

* 虐待を受けた子どもをはじめとする要保護児童等に関する情報の交換や支援を行うために協議を行う場。

1. 訓子府町要保護児童対策地域協議会 (福祉保健課)

《第1期の評価》

- ・要保護児童対策協議会が中心となり、特定妊婦、虐待のハイリスク者やDV、不登校等様々な問題を抱えるケースについての情報共有や対応についての検討に努めました。
- ・児童相談所をはじめ、医療機関、学校、認定こども園、教育委員会等との連携を図ることができました。

《第1期を振り返っての課題》

- ・児童に関わる関係者がそれぞれの機関で抱え込むことのないよう、タイムリーな実務者会議、個別ケース会議を開催し、情報や方針の共有を図っていく必要があります。

【主な施策4】 子どもの安全の確保

(第1期計画の内容)

子どもを交通事故や犯罪等の被害から守り、安全を確保するためには、警察、行政、こども園、学校等の関係機関と地域が一体となって協力し、安全体制・防犯体制を整備することが必要です。

通学路など子どもにとって危険な場所の把握や対策に努めるとともに、子どもたちの交通安全意識の向上を図ります。

また、子どもが被害者となる犯罪を未然に防ぎ、子どもが安全に暮らせる地域をつくるため、街灯・防犯灯の整備など犯罪が起こりにくい環境づくりを進めるとともに、地域ボランティアによる防犯パトロールや子どもの見守り活動を推進します。

(第1期計画の実績)

事業名	単位	H27	H28	H29	H30	H31 (R元)
こども110番の家	箇所	306	303	303	298	298
子ども110番の車	台	41	41	41	41	41
子ども安全パトロール	人	251	251	131	118	118
校外生活指導リーフレット・ 校外生活町内巡視指導	回 人	2 30	2 30	2 12	2 19	2 25
交通安全教室	回	1	1	3	3	3

1. こども110番の家・子ども110番の車 (社会教育課)

〈第1期の評価〉

- 子どもたちの危険を未然に防止するため、関係機関や地域と協力し、各種事業や活動を推進しました。
- 関係機関と連携を図り、「こども110番の家」のステッカー・のぼりの設置や車(主に公用車に標示)の取り組みを実施することにより、子どもたちが犯罪・災害・事故等に巻き込まれないよう未然に防止することができました。

〈第1期を振り返っての課題〉

全国的に子どもが被害者となる事件や事故が増えており、子どもが安全に暮らせる地域づくりのために、今後も事業の周知を含めて関係機関や地域と協力し、各種事業や活動を推進する必要があります。

2. 子ども安全パトロール隊 (社会教育課)

《第1期の評価》

- ・「こども110番の家」や「子ども110番の車」の取り組みとともに関係機関や町内ボランティアの理解と協力が得られ、防犯・防災・交通安全等で地域における子どもたちの見守りに努めました。

《第1期を振り返っての課題》

- ・街中に店舗が少なくなっていること、日中留守の家庭が多くなってきていることから新規登録（協力）者が伸びない状況です。

3. 校外生活指導リーフレット・校外生活町内巡視指導 (社会教育課)

《第1期の評価》

- ・夏休みに向けて郊外生活指導リーフレットを配付しました。巡視指導は、夏休み期間中だけではなく町内各イベントに合わせて実施し、学校・地域・団体代表者により町内を巡視できました。また、年2回の青少年育成会議を開催し、子どもたちの生活の様子などについて話し合い、情報共有を図ることができました。

《第1期を振り返っての課題》

- ・現在のところ関係団体（PTA 連合会、各学校等）より課題はあがりませんが、少年が関係するインターネットや SNS などの犯罪が増えているので、関係機関が十分に連携して注意喚起していくことが必要です。

4. 交通安全教室の開催 (こども園・学校)

《第1期の評価》

- ・模型、紙芝居、人形、ビデオなど子ども達が興味を持ち、理解につなげられるよう視聴覚教材等を利用した指導ができました。また、指導員との触れ合いを通じて、分かりやすく学ぶことができました。

《第1期を振り返っての課題》

- ・交通安全教室は、実践指導時に雨天延期や中止となることがあるため、天候に左右されない内容を工夫し、進めていく必要があります。また、入園園児の低年齢児増に伴い、園児の指導とあわせて、保護者に対する「交通安全指導及び子ども達の安全な生活」に向けた指導、注意喚起などについて、引き続き、呼びかけていきます。

【主な施策5】 子どもの健全育成

(第1期計画の内容)

子どもの健全育成のため、安心して子ども同士が交流を行う場として、自由に活動や学習、遊びができる子どもの居場所づくりを積極的に推進します。

(第1期計画の実績)

事業名	単位	H27	H28	H29	H30	H31 (R元)
放課後児童対策						
自由来館登録数	人	113	120	104	109	117
児童クラブ登録数	人	46	46	49	51	45
放課後子ども教室	人	148	87	110	95	108
通学合宿	人	9	23	18	11	14
子ども会活動	人	399	358	353	313	308
子ども体カテスト	人	218	98	87	91	63
健やか絵本贈呈事業 (ブックスタート)						
新生児絵本配付数	人	26	28	31	32	24
1歳6か月絵本配付数	人	29	20	34	33	28

1. 放課後児童対策 (児童センター)

《第1期の評価》

- ・支援が必要な児童への対応として、特別支援員を配置し、環境整備を図ってきました。また、職員の研修として、支援が必要な児童に対する研修、放課後児童支援員の資格認定研修、こども園、子育て支援センターと連携した合同研修などを実施し、職員の資質向上に努めました。

《第1期を振り返っての課題》

- ・共働き世帯の増加などにより利用人数が増え、施設が混雑・狭隘化しており、支援が必要な児童の受入環境を含めて、施設の整備や職員体制を見直す必要性が出てきています。また、子どもを取巻く社会環境の変化に合わせた、地域全体で育成支援を進めるため、総合的な放課後対策について検討する必要があります。

2. 放課後子ども教室(竹の子クラブ・みつばちクラブ) (社会教育課)

《第1期の評価》

- ・少子化・核家族化が進展する中、子どもたちが放課後や週末をより豊かに過ごすための事業を展開できました。

《第1期を振り返っての課題》

- ・さまざまな体験活動が求められており、児童センター、スポーツセンター、図書館、歴史館等と連携しながら、年間を通じたプログラムを実施していく必要があります。児童センターや関係機関と連携を図り、年間を通じた事業を実施していきます。

3. 通学合宿 (社会教育課)

《第1期の評価》

- ・さまざまな体験活動とジュニアリーダーを養成する事業として町子ども会育連協と共催で行ってきました。夕食やもらい湯などで地域と交流を深めることができました。

《第1期を振り返っての課題》

中学生の参加が少ない傾向にあります。通学合宿は、ジュニアリーダー養成を兼ねた研修として実施することにより、異年齢の子どもたちが参加し、生活のリズムや規律を学ぶ機会を得るため、参加対象となる小中学生の保護者等にも呼びかけを行う必要があります。

4. 子ども会活動（社会教育課）

《第1期の評価》

- ・少子化・核家族化に伴い、地域における単位子ども会の人数は減少してきていますが、単位会ごとに活発に活動しています。連絡協議会としては、「子どもまつり」や「通学合宿」等の事業を実施し、町民や高校生等をボランティアに加えながら実施することができました。

《第1期を振り返っての課題》

- ・単位会によって子どもの人数のばらつきがあり、それによって活動内容にもばらつきが出てきてしまうので、バス旅行などが合同でできるような方法について検討していくことが必要です。

5. 子ども体力テスト（社会教育課）

《第1期の評価》

- ・学校体力テストの結果と連動した比較表を実施後に配付し、子どもたちが自分の結果により得意、不得意を知ることができ、その後の子どもを対象とした事業やスポーツ活動への参加を促すことができました。

《第1期を振り返っての課題》

- ・体力テストに参加する児童が年々減少傾向にあります。
- ・教育委員会で開催している体力テストは、少年団加入者が大半となっているため、学校で実施する体力テストと総合値を比較すると差が出ています。少年団に加入していない子どもたちの体力低下が見受けられるため、少年教育事業などを通じて遊びをきっかけにした体力づくりが必要となっています。

6. 健やか絵本贈呈事業（ブックスタート）（図書館）

《第1期の評価》

- ・子ども未来課と連携し、新生児及び1歳6か月児に絵本を贈呈することにより、親子で絵本に親しむ機会の充実を図りました。

《第1期を振り返っての課題》

- ・新生児への絵本贈呈は、図書館に来館しての受け取り希望が増えていることから、贈呈後も親子での図書館利用の定着につなげていくための案内やPRが必要です。

【主な施策6】 「食育」の推進

(第1期計画の内容)

食べることは、生きるための基本であり、子どもの健やかな心と身体の発達に欠かせないものであるため、今後も関係機関が連携し、取り組みを推進します。

また、子どもたちが「菜園で育てる」、「収穫する」、「食べる」といった活動と食に関心を持つことを通して、情緒豊かな子どもたちの健やかな発達につなげるとともに、本町の基幹産業である「農業」を学び、郷土愛に結び付けていきます。そのため、認定こども園での完全給食や、栄養士による食育事業の取り組みを検討していきます。

(第1期計画の実績)

1. 「食育」の推進 (こども園)

《第1期の評価》

- ・地域の方との触れ合い、作物を育てる経験、自園の給食などを担当する管理栄養士との触れ合い、手作りおやつや調理実習など「直接体験」を中心に、年齢に合った食育体験が、子ども達の心と体の豊かさを育むことに繋がっていることを実感することができました。また、園内設備の「移動キッチン」も十分活用することができています。発行物（給食だより等）の効果的活用により、保護者が食育について考える機会となっています。

《第1期を振り返っての課題》

- ・今後は、菜園（自園及び銀河農園）における、継続的な生長過程の観察や、教えていただいたことを継続的に意識するなど、活動の積み重ね、意欲の継続を重要視し、知識や実際の行動として身に付く内容となるよう見通しを持った食育計画を進めることが課題となっています。また、人と人との触れ合いの中で多くを学び、生命の大切さを伝えられる計画・実践をめざします。

2. 各世代の食育の推進 (子ども未来課)

《第1期の評価》

- ・離乳食教室などを通じて食育について学び、育児不安の解消に繋がっています。また同じ年齢の子どもを持つ保護者同士の交流に努めました。

《第1期を振り返っての課題》

- ・第2子目以降の教室参加率が低い傾向にあるため、いろいろな場面で参加を呼びかける必要があります。